

# 年次大会・例会研究発表の記録

[1991~2020 敬称略、身分は研究発表当時]

## 2020 年

第 12 回年次大会 (2020.9.6. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

新型コロナウイルス感染拡大の為に延期 (2020.3.7. ZOOM 開催予定)

第 140 回例会 (2020.3.1. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

新型コロナウイルス感染拡大の為に延期 (2020.12.6. ZOOM 開催)

〈研究発表〉

「E. M. フォースター作『永遠の命』における寓意的意味について」

日本大学博士課程満期退学 高坂 徳子  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

「Instagram を取り入れたアクティブラーニング」

TOEIC Test Part1 写真描写問題、Part2 会話問題の問題作成授業の報告」

順天堂大学教育講師 松本恵美子  
司会 東京女子医科大学准講師 森景 真紀

## 2019 年

第 11 回年次大会 (2019.9.1. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「クリスティナ・ロセッティの抒情詩にみる仮定法の機能」

埼玉工業大学非常勤講師 藤田 晃代  
司会 日本女子体育大学教授 加賀 岳彦

〈連続シンポジウム〉

「英米文学・文化と人種・民族の問題 I」

本シンポジウムの趣旨

コーディネーター 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

今やグローバル化に対応するため、正確な英語の習得だけでなく、国際感覚を身につけることは、当然のこととされる時代となった。国際感覚を身につける上で、異文化を深く理解することは必須事項である。異文化理解の中には、人種や民族についての理解も含まれる。

1974年第18回ユネスコ総会は、「国際理解教育・国際協力および平和のための教育、ならびに人権および基本的自由に関する教育についての勧告」を採択した。この勧告では、世界人権宣言に示された教育の目的を冒頭に掲げた後、教育政策の原則として7項目を提示した。これは、現段階におけるユネスコの基本的な考え方を示すものである。その中の第二項目は、「全ての民族、その文化・文明・価値および生活様式に対する理解と尊重」であり、第三項目は、「諸民族および諸国民の間に世界的な相互依存関係が増大していることの認識」である。

これらの項目は、ユネスコを核とした国際理解教育の目的と使命、すなわち、「自給自足を失い、他国との協調連帯なしには存続することが不可能になっている国家という現実に立脚しつつ、世界の平和と人類の福祉を達成しようとする現代世界の根本問題に貢献しようとする」と深く関わっている。

このような国際的な認識に立って文学・文化研究の中で人種・民族の問題を考えることは、非常に有益であると思われる。世界ではいまだテロや紛争の脅威はなくなり、人種差別が依然として残っている。一方で、最近の話題として、英国では、ヘンリー(Henry)王子が白人の父親とアフリカ系の母親を持つアメリカ人メーガン(Meghan)妃と結婚したことが記憶に新しい。英国王室が彼女を暖かく迎え入れたことに時の推移を感じ取ることができる。

人種・民族に関する意識がますます高まっている現在、このテーマを扱うことには大きな意味がある。また、人種・民族に関する作家の見解や文化の中での見解を鮮明にするというメリットもある。そこで、このテーマに関心のある者がそれぞれの観点から人種・民族の問題を論じることとなった。会の性質上、英米の言語や文化を基調としたものを扱うこととする。(このコンセプトは一応の目安となるものであるが、内容は自由で、「人種・民族」を彷彿させる全てを含むものとする。) 有益なシンポジウムとなることを祈っている。

(「平等」や「移民」や「文化的特徴」などをキーワードに、2020年9月に東京の年次大会で行われるシンポジウム「人種・民族Ⅱ」と連携して共著企画を模索中である。2020年9月に関西支部でも「人種・民族」に関する例会が行われる。共著企画は自由参加。)

#### 発題者 1

「*Oliver Twist* 一反ユダヤ主義とフェイギン」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

#### 発題者 2

「イギリスの民族及びその階級社会について—ジョージ・オーウェルを元に考察する」

前日本オーウェル協会会長 大石健太郎

#### 発題者 3

「作者オーガスト・ウィルソンと作中人物マ・レーニーとの距離感：

アフリカン・アメリカンのアメリカでの立ち位置に関して」

駒澤大学非常勤講師 伊勢村定雄

発題者 4

「歴史と民族意識が招いた韓国の英語事情—日本人英語からの脱却」

東京電機大学総合研究所研究員 伊藤由起子

第 138 回例会 (2019.3.3. 於日本大学文理学部)

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発題者 15

「接続詞 that の現れる位置と省略可能性について」

(ゲスト) 東北大学大学院生 田村 惇

司会 文教大学准教授 野村 忠央

発題者 16

「洋楽 (*Can't Take My Eyes off You*) の歌詞を使った授業報告」

日本大学非常勤講師 奥井 裕

司会 北里大学非常勤講師 森景 真紀

第 139 回例会 (2019.12.1. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「ETS 公式単語集を含む、TOEIC 試験対策用の一般単語集、販売上位の単語集と新 JACET8000 の 8 レベルとの一致度の比較」

順天堂大学教育講師 松本恵美子

司会 北里大学非常勤講師 加藤 良浩

Analysis of Junior High School English Textbooks from the View of Prepositions

茨城大学大学院生 高橋 周作

司会 日本大学教授 小堂 俊孝

「イギリス・ロマン派の画家ターナーを中心とする西欧絵画と日本文学

—宮沢賢治、「描いた絵画から見た絵画を伏線として—」

日本大学大学院生 堀内 克丸

司会 日本大学教授 植月 恵一郎

関西支部第 32 回例会 (2019.9.7. 於同志社大学今出川校地 (烏丸キャンパス))

〈研究発表〉

「Maurya と Mrs. Synge—戯曲 *Riders to the Sea* に見られる母親像」

京都外国語専門学校非常勤講師 小林 佳寿

司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

「ハズリットとルソーの『社会契約論』」

龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏  
司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「ブラム・ストーカーが描く英国の一善良市民、ジョナサン」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ  
司会 同志社大学教授 遠藤 徹

## 2018 年

第 10 回年次大会 (2018.9.2. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「ジョン・マリー社による岡倉覚三(天心)の『東洋の理想』出版の背景とその意義」  
茨城大学教授 小林 英美  
司会 専修大学教授 中垣恒太郎

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発題者 12

「作品タイトルに見る日英語の相違」

北里大学非常勤講師 森景 真紀  
司会 日本獣医生命科学大学准教授 鴫崎 敏彦

発題者 13

「ヴァージニア・ウルフの“Legacy”を教室で読む—自由間接話法を体験する意義」  
明治大学非常勤講師 吉田えりか  
司会 日本赤十字看護大学教授 川崎 修一

発題者 14

「語学(英語)の授業での文学作品をどう扱うか」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 桐生大学教授 女鹿 喜治

第 136 回例会 (2018.3.11. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「E. M. フォースター作「機械は止まる」における「本」の役割について」

日本大学大学院生 高坂 徳子  
司会 東北女子大学准教授 杉本久美子

「国際化する文芸批評と読者網—予約購読出版と読書施設の役割」

茨城大学教授 小林 英美  
司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

第 137 回例会 (2017.12.2. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「明治初期のディケンズ受容—内田魯庵を中心に」

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之  
司会 日本大学教授 閑田 朋子

関西支部第 31 回例会 (2018.9.10. 於同志社大学今出川校地(烏丸キャンパス)志高館)

〈ワークショップ〉

「英文学と階級」

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「D.H. ロレンスの階級意識」

同志社女子大学非常勤講師 井上 径子

「*Great Expectations*—階級の上昇と因果律」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

〈研究発表〉

「スフィンクスの笑み—H. G. ウェルズ『タイム・マシン』と人間の未来」

同志社大学教授 遠藤 徹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2017 年

第 9 回年次大会 (2017.9.3. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈シンポジウム〉

「外国から見た日本」

司会 駒澤大学非常勤講師 伊勢村定雄

1853 年 7 月 8 日、江戸湾浦賀沖に四隻の船が表れ、開国を迫った。いわゆる「黒船」の司令長官は、ペリー (Matthew Calbraith Perry, 1794-1858) であった。ペリー艦隊の来航以来、日本が鎖国を解いて久しい。現在に至るまで、エドウィン・ライシャワー (Edwin Reischauer, 1910-90) やドナルド・キーン (Donald Keene, 1922-) など日本文化に造詣の深いアメリカ人が現れ、日本文化を紹介してきたが、アメリカ人以外にも日本文化を紹介してきた外国人はいる。近年、日本への観光客が著しく増えている。日

本への興味は、さかのぼれば 19 世紀ヨーロッパにおけるジャポニズムにたどり着くことができるかもしれない。

一方で日本人は、開国以来他国の文化を取り入れたり、自国の文化を紹介する上で英語を身につける必要に迫られた。しかしコミュニケーションに関しては、日本で生まれて「英語らしく」使っているが、ネイティブ・スピーカーの使っている英語と異なる英語を使うこともないわけではない。さらに、たとえ正しい英語を用いてもどのように日本を紹介したらいいかという点も問題となる。

本シンポジウムでは、2020 年に東京オリンピックを控えた今、外国人がいかに日本を見ていたかだけでなく、コミュニケーションをはかる上で用いられる日本人特有の英語、さらにいかに日本を紹介すればよいかという点についても考察してみたい。パネリストは、それぞれの分野に関心のある 3 人にお願いした。有意義なシンポジウムになることを祈っている。

文責（コーディネーター） 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

*Murray's Handbooks for Travellers in Japan* に見られる日英間の視線

発題者 津田塾大学大学院生 清水由布紀

「韓国人から見た日本人の英語」

発題者 東京電気大学専任講師 伊藤由起子

「インバウンド概観と拙著『観光日本への誘い』の成立と特徴」

発題者 駒澤大学非常勤講師 伊勢村定雄

#### 〈講演〉

「迷惑な英文学について」

早稲田大学教授 安藤 文人

2007 年、所属する学部の改編を期に、英文学の教育と研究から離れ、学部の英語教育を専ら担当してきた。その間、全て英語で教える授業・カリキュラムの充実を図り、この春には民間試験の活用による 4 技能型入試も導入し、英語教育における高大接続にも道筋をつけた。実際 2020 年からはセンター試験も 4 技能化することが決まっているが、そのような到達点から現今の英文学教育を見ると、高校、あるいは大学において様変わりしつつある英語教育との間に、非常に大きな懸隔が生じているという感を禁じ得ない。そして、その隔たりを挟んで見えてくるのは、日本の英文学教育、あるいは研究活動の極めて特異な様相である。すでに門外漢となつてはいるが、英文学を学んだ多くの学生が中高の英語教員となり、英文学に携わる教員が大学入試の作成にかかわる以上、ガラパゴス化した英文学教育が英語教育に与える弊害について述べることは許されるのではないかと考えている。

司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 134 回例会（2017.3.5. 於日本大学芸術学部江古田校舎）

〈研究発表〉

「2013年のニューヨーク滞在経験からトランプ大統領の就任を考える  
——本当に不寛容のアメリカへの転換点と受け取れるのか——」

日本大学教授 佐藤 聡彦  
司会 駒澤大学非常勤講師 伊勢村定雄

第135回例会 (2017.12.3. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

『ピーターとウェンディ』の光と影」

茨城大学大学院生 鳴井 柚紀  
司会 茨城大学教授 小林 英美

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発題者 10

「主語と補語との数の(不)一致について」

日本赤十字看護大学教授 川崎 修一  
司会 日本獣医生命科学大学准教授 鵜崎 敏彦

発題者 11

「言語の古い形が残っているのは中心の地あるいは周辺の地?」

明海大学講師 野村 忠央  
司会 桐生大学教授 女鹿 喜治

関西支部第30回例会 (2017.9.9. 於同志社大学今出川校地 (烏丸キャンパス) 志高館)

〈ワークショップ〉

「英米文学と絵画性」

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「*The Great Gatsby*に於ける絵画性と色の象徴」

桃山学院大学非常勤講師 西山 久子

「*Pictures from Italy*における「ピクチャレスク」の用いられ方」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

〈研究発表〉

「Trump-Kong or Vietkon(g)? : 映画『キングコング：髑髏島の巨神』(2017)を読む」

同志社大学教授 遠藤 徹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2016 年

第 8 回年次大会 (2016.9.4. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

### 〈研究発表〉

「——破滅的な過去と脆弱な未来——『パリの家』で描かれる囚われた大人たちと明敏な子どもたち」

東北女子大学准教授 杉本久美子  
司会 日本大学専任講師 近藤 直樹

### 〈シンポジウム〉

#### 「シャーロット・ブロンテ生誕 200 周年記念シンポジウム」

2016 年は、シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë, 1816-55) の生誕の年から数えて丁度 200 周年目に当たる。この節目の年に何か出来ないかと発題者 3 人で相談した結果、このシンポジウムを企画する運びとなった。

発表要旨を一瞥すれば分かるように、3 人の発題者の問題意識は全く異なるものである。だが、3 人の問題意識が異なるとは言っても、シャーロット・ブロンテの作品に対して真摯に取り組もうとする情熱は共有しているつもりである。

生誕 200 年という記念すべき年に、シャーロット・ブロンテが触媒となり、活発な化学反応が起こるとすれば、冥府にいるこの作家も喜んでくれるに違いない。

(文責：田村 裕二)

#### 「Charlotte Brontë と Harriet Martineau: 心の表象をめぐって」

桜美林大学人文学系准教授 大竹麻衣子

#### 「*Villette* におけるプロテスタントとカトリック」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

#### 「教室で「見る」英文学——『ジェイン・エア』を中心に——」

早稲田大学非常勤講師 田村 裕二  
シンポジウム司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

第 132 回例会 (2016.3.6. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

### 〈研究発表〉

「楽園の喪失」試論——「楽園の東の門」に関する一考察

埼玉医科大学専任講師 上滝 圭介  
司会 秋田工業高等専門学校専任講師 古河美喜子

第 133 回例会 (2016.12.4. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

### 〈研究発表〉



「19世紀初頭のイギリス詩の同時代アメリカ定期刊行物書評」

茨城大学教授 小林 英美  
司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発題者 8

「外国語教育としての英語教育」

明星大学助教 藤原 愛  
司会 日本大学非常勤講師 奥井 裕

発題者 9

「were to が現れた条件文の帰結節は仮定法だけなのか」

(ゲスト) 桐生大学教授 女鹿 喜治  
司会 明海大学講師 野村 忠央

関西支部第29回例会 (2016.9.10. 於同志社大学今出川校地良心館)

◆ 関西支部創設20周年記念特別大会

〈ワークショップ〉

「アイルランド文学を読む」

司会 環太平洋大学講師 中村 仁美

「彼の愛したヒロインたち—J. M. Synge の戯曲に描かれる女性のアイリッシュネス」  
京都女子大学博士課程満期退学 小林 佳寿

「*The Portrait of the Artist as a Young Man* におけるステイヴンの魂の救済」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「混迷する『場所の感覚』——南北分割とアルスターの作家たち——」

環太平洋大学講師 中村 仁美

〈シンポジウム〉

「文学と教育」

「レトリックと文学の接点——エナルゲイア」

同志社女子大学名誉教授 辻 裕子

「Culture Informs Literature —— 文学を通して言語が果たす役割を知る」

京都大学非常勤講師 江藤あさじ

「英語教育における文学素材の可能性——ターゲットスキルの視座から——」

京都外国語大学(専門学校)専任講師 幸重美津子

「語学の基礎教育に関する一考察——辞書の活用について」

日本大学教授 植月 恵一郎

## 2015 年

第 7 回年次大会 (2015.9.6. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「江戸川乱歩作品にみる、E.A. ポオからの影響——踏襲点と差異について——」

日本大学大学院生 高野 和彰  
司会 日本大学教授 植月 恵一郎

「古典作品の継承者として——Cynthia Ozick の Heir to the Glimmering World」

東京電機大学専任講師 大森 夕夏  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

「小説論に見るジョージ・オーウェルのアメリカ観」

日本大学助教 近藤 直樹  
司会 和光大学非常勤講師 奥井 裕

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発題者 6

「大学の英語教育におけるアウトプット力向上方法」

デジタルハリウッド大学准教授 江幡真貴子  
司会 デジタルハリウッド大学教授 大石健太郎

発題者 7

「動詞と接触する名詞句の“秘密の関係”を暴露する」

日本赤十字看護大学准教授 川崎 修一  
司会 日本女子体育大学准教授 加賀 岳彦

第 130 回例会 (2015.3.1. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「2015 年から見たオーガスト・ウィルソンの主張」

東洋大学非常勤講師 伊勢村定雄  
司会 日本大学教授 植月 恵一郎

第 131 回例会 (2015.12.6. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ディケンズとポー」

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

「Shakespeare の初期作品にみる artifice—The Comedy of Errors 再考」

日本大学非常勤講師 小山 誠子  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

関西支部第 28 回例会 (2015.9.10. 於同志社大学今出川烏丸校地志高館)

〈ワークショップ〉

「ジェンダーの諸相」Ⅱ

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「D. H. ロレンス後期の短編小説に見られる女性像——「太陽」を中心に」

同志社女子大学非常勤講師 井上 径子

「イザベラ・バードの見た日本」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

〈研究発表〉

「もうひとりのスーパーマン」

同志社大学教授 遠藤 徹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2014 年

第 6 回年次大会 (2014. 9.7. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「ジョナサン・スウィフトの『桶物語』——その風刺の手法」

青山学院大学非常勤講師 妹尾新太郎

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

日本獣医生命科学大学専任講師 鴫崎 敏彦

学会の存在意義の 1 つに社会貢献があることは論を俟たない。そして、当学会が守備範囲としている諸分野の研究活動を社会に還元する有効な手段の 1 つに、その研究成果の英語教育への応用が挙げられることも、多くが認めるところだろう。そこで、最近の英語教育の動向に目を向けてみると、コミュニケーション能力が重要視されており、と

にかく「慣れる」ことで英語力を育成しようとする傾向にあるように感じられる。もちろん、「慣れる」ことは大切であるし、英語をツールとして使えるようにならなければ、学習する意味がないのも当然である。しかし、限られた時間の中で効率よく英語力を身に付けるためには、「慣れる」だけではなく、きちんと「理解」することも重要であることは間違いない。その「理解」を促す過程で、最新の研究成果はもちろんのこと、概論レベルの知識であっても、授業者の工夫次第で、学問的知見を活かすことは十分に可能であると考えている。本シンポジウムでは、「学問的知見を英語教育に活かす」というテーマのもと、各発表者が、各々の専門分野における英語教育に活かすことのできる学問的知見や、その知見を活かした教授法について取り上げる。

発題者 1

「英語の指示表現の機能」

日本女子体育大学助教 山田 七恵

発題者 2

「English as a Lingua Franca (ELF) に基づいた英語教育」

明星大学助教 藤原 愛

発題者 3

「英語史の知見を英語教育に活かす～習熟度の別を問わない効果的な発問を探る～」

日本獣医生命科学大学専任講師 鴫崎 敏彦  
シンポジウム司会 和光大学非常勤講師 奥井 裕

第 128 回例会 (2014.3.2. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「*The Water-Babies* における魂の成長」

茨城大学大学院生 海老沢朱里  
司会 茨城大学准教授 小林 英美

第 129 回例会 (2014.12.7. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「定期刊行物での予約購読形式詩集の書評 ——読者拡大の意図——」

茨城大学准教授 小林 英美  
司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

〈連続シンポジウム〉

「学問的知見を英語教育に活かす」

発起人 日本獣医生命科学大学専任講師 鴫崎 敏彦

発題者 4

「*Summing Up* を教室で読む」

東洋大学非常勤講師 岡部 佑人

発題者 5

「混乱の多い英文法の専門用語について」

北海道教育大学旭川校准教授 野村 忠央  
シンポジウム司会 和光大学非常勤講師 奥井 裕

関西支部第 27 回例会 (2014.9.10. 於同志社大学今出川烏丸校地志高館)

〈ワークショップ〉

「ゴシック小説を読む」

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

『吸血鬼』の『起源』をめぐって」

大阪市立大学非常勤講師 小林 裕史氏(ゲスト)

「*Dracula* ——ヴァン・ヘルシング教授の説明と物語の展開」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「ドラキュラのリベンジ——ある実験的な読み方」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

「裏返しのゴシックネス Björk “All is Full of Love” の MV を読む」

同志社大学教授 遠藤 徹

## 2013 年

第 5 回年次大会 (2013. 9. 1. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「ディケンズの『憑かれた男』を読む」

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

〈シンポジウム〉

主題：「英米文学と旅」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂 (一発起人として)

旅や移動という言葉で我々が最初に想起するのは、余暇を楽しむための空間移動(観光旅行)であろう。日常生活から解放されたのんびりとした時間を思い思いの場所(非日常的空間)で過ごし心身を癒すことが、我々にとっての旅ないし、移動の目的である。また旅は好奇心を満たすという目的を持つこともある。英国の駐日公使であったアーネスト・サトウ (Ernest Satow, 1843-1929) の日本内陸旅行に関する日記を読むと、新し

い発見だけでなく、自国の文化との比較という視点が見られる。旅に関する興味は古今東西変わらぬものようである。

しかし、一方で旅は苦難でもある。移動によって人々は日常言語や習慣、家族、親族関係から切り離され、伝統的な法関係の及ばない異境に身を置くことになる。このことから旅は過去との決別であり、異文化との出会いでもある。作家や作品の中の登場人物は、異文化と接触することによって自らのアイデンティティを認識したり、再確認したりする。

旅は人生の道を象徴することもある。旅によって今までと異なる人生を歩む人間もいるからである。ロビンソン・クルーソー (Robinson Crusoe) や *The Pilgrim's Progress* のクリスチャン (Christian) は、なぜ旅をしなければならなかったのか？ 作家たちは、魂の巡礼という意味を作品の中に持たせている。文学の中で旅を考えることは、異文化の意味、作家や登場人物のアイデンティティ、人生の意味を考えることにつながり、大変意義深いと言える。

このような主旨のもとシンポジウムを行うこととなった。英文学 17 世紀からは大西氏、18 世紀からは植月会長、19 世紀からは吉田が、そして米文学からは横山氏が、それぞれの観点から旅を論じた。相乗効果により、文学と旅を考える上で有意義なシンポジウムとなった。

「ミルトンとグランド・ツアー」

早稲田大学非常勤講師 大西 章夫

「馬の樂園と地獄 —— 〈フウイヌム〉 から「ギルピン」まで」

日本大学教授 植月 恵一郎

「*Little Dorrit* —— エイミー・ドリットとグランド・ツアー」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「ラフカディオ・ハーンの「古い日本」発見の旅 —— 「ある保守主義者」とは誰か」

群馬工業高等専門学校准教授 横山 孝一  
シンポジウム司会 日本大学教授 植月 恵一郎

第 126 回例会 (2013.3.3. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈ミニ・シンポジウム〉

主題：「拡大する読者と英米文学」

本学会 2010 年度全国大会 (於日本大学) におけるシンポジウム「拡大する読者ネットワーク：文学嗜好の共有が作り出す 19 世紀文芸思潮」(発題者兼司会：小林、発題者：中垣、藤原) の続編としての位置づけにあるシンポジウムである。今回も小林が引き続き司会をし、最初に 19 世紀の出版・読者層などの事情を概観したうえで、女性詩人シャーロット・スミスの予約購読出版の事例をとりあげた。続いて水野氏が、人気作家ディケンズを取り上げ、前回の中垣氏のマーク・トウェインと対照するかたちとなっ

た。(当日は中垣氏も出席していたので、刺激的な質疑応答となった) また外部からの発題者として、今回は金澤氏が参加し、アメリカ女性詩人エミリ・ディキンソンの事例を取り上げ、女性詩人という立場で小林の発題と対照されただけでなく、前回の藤原氏のキーツと対照でき、こちらにも有意義な質疑応答となった。

司会 茨城大学准教授 小林 英美

発題者 1 : 茨城大学准教授 小林英美

「支援者を通して拡大・増加する読者——シャーロット・スミスの詩集の事例」

茨城大学准教授 小林 英美

発題者 2

19 世紀における小説読者の拡大とディケンズ

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

発題者 3

「エミリ・ディキンソンと「読者」——「送られた」詩と「送られなかった」詩」

早稲田大学非常勤講師 金澤 淳子

第 127 回例会 (2012.12.1. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「物語作家としての Harriet Martineau と観念連合説」

桜美林大学准教授 大竹麻衣子

司会 群馬パース大学保健科学部准教授 杉田 雅子

「予約購読出版詩集と定期刊行物書評——グラント夫人の場合」

茨城大学准教授 小林 英美

司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

関西支部第 26 回例会 (2013.9.14. 於同志社大学今出川烏丸校地志高館)

〈ワークショップ「都市と表象」〉

『二都物語』——パリとその表象」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「ハズリットと「抽象的な」ロンドン」

龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏

『華麗なるギャツビー』におけるジャズエイジの特色」

桃山学院大学非常勤講師 西山 久子

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

## 2012 年

第 4 回年次大会 (2012.9.2. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

### 〈研究発表〉

「*A Passage to India* に見る E. M. Forster のパターンとリズム」

東北女子大学専任講師 杉本久美子

司会 松山大学准教授 新井 英夫

「英語聖書における外国語の影響」

日本大学准教授 佐藤 勝

司会 北海道教育大学旭川校准教授 野村 忠央

### 〈シンポジウム〉

「ディケンズ生誕 200 年を迎えて」

司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

2012 年はチャールズ・ディケンズの生誕 200 年という記念すべき年である。本国イギリスでは、ディケンズの誕生日である 2 月 7 日に彼が眠るウェストミンスター寺院で式典が催され、チャールズ皇太子も参列し、イギリスが生んだ大作家の生誕 200 年を盛大に祝ったようである。これに便乗するわけではないが、当学会にはディケンズと同時代の作家や文化を研究する会員を比較的多く有していることもあり、ディケンズについて本大会で取りあげるのも無意味ではなかろうと考え、ここに「ディケンズ生誕 200 年を迎えて」と題してシンポジウムを企画した。ディケンズを専門とする立場から吉田氏と水野が、またユニークなディケンズ論を発表したジョージ・オーウェルを研究する近藤氏がそれぞれ以下のテーマで発表する。ディケンズの魅力と彼の作品を理解する一助となればと願う。

「ディケンズとジェンダー ——家父長制神話の崩壊とディケンズの境界線——」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「オーウェルの見たディケンズ」

中央大学非常勤講師 近藤 直樹

「近年のディケンズの伝記的研究の成果について」

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 124 回例会 (2012.3.13. 於日本大学会館第二別館)

### 〈研究発表〉

「『ラプソディー』とロバート・バートンの『憂鬱の解剖』」



青山学院大学非常勤講師 妹尾新太郎  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

「佐藤春夫とホイッスラー」

日本大学研究員 山中 千春  
司会 デジタルハリウッド大学教授 大石健太郎

## 第 125 回例会 (2012.12.2. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「『トムは真夜中の庭で』にみられる伝承童謡の影響」

茨城大学大学院生 山田 真  
司会 茨城大学准教授 小林 英美

「読みかえの物語としての『遠い山なみの光』——エツコの自己物語によるケア——」

松山大学准教授 新井 英夫  
司会 日本大学准教授 閑田 朋子

## 関西支部第 25 回例会 (2012.9.11. 於同志社同窓会館)

〈テーマ:「ジェンダーの諸相」〉

### 第一部 基調講演

「マルグレーター世」

大阪大学非常勤講師 牧野 正憲

デンマーク女王マルグレーター世(在位 1375-1412)が彼女の後継者であるエーリク王にあてた、直筆の極めて私的な様々な助言の書、いわゆる『エーリクへの指示書』を通して、謎の多い彼女の政治手腕や人物像を考察した。

### 第二部 ワークショップ「文学とジェンダー」

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

「17世紀の新しい女性像「才女」とフェミニズムについて」

関西大学非常勤講師 栗野 広雅

「フェミニズム批評の功罪——翻弄される作家たち——」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

「シャーロット・ブロンテとジェンダー——*Jane Eyre*におけるヒロインの願望と選択——」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

## 2011 年

第 3 回年次大会 (2011.9.4. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

### 〈研究発表〉

「対立する価値観の考察——エミリ・ブロンテの思想——」

日本大学非常勤講師 山本由布子  
司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

「民主主義的世相への徹底批判——カーライル最後の社会批評を読む」

早稲田大学准教授 岡田俊之輔  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

### 〈シンポジウム〉

「教室で生かす英語学」

司会 北海道教育大学旭川校准教授 野村 忠央

英語学 (応用言語学と英語教育学を除く)・英文学を専攻する人たちの間で研究活動と教育活動の乖離が進んでいる。つまり、専門科目でも受け持たない限り、研究活動と教育活動(英語の授業)が別物になっているわけだが、極めて憂慮すべきことである。自分の専門を教室で生かすことができなければ、早晚、教員としての存在意義が問われ、ひいては教育現場から淘汰されることにもなりかねない。しかし、英語学・英文学は今日の英語教育の場では無用の長物になったのかと言うと、断じてそうではない。むしろ「今」のような時代だからこそ求められている。それ故に私たちは英語学・英文学の有用性をこれまで以上に外に向けて発信し、教室で生かしていく必要がある。今回のシンポジウムでは、〈教室で生かす英語学〉というテーマのもと、出現頻度が高いにもかかわらず、一般向けの英文法参考書 (『総合英語 Forest』など) で詳しく扱われない二つの重要項目を研究発表の形で取り上げ、併せて仮定法についての授業報告を行う。

「結果構文における一考察——Time-away 構文および Way 構文との関係性をめぐって——」

津田塾大学助教 阿部 明子

「英語における「場所句倒置構文」の特性と分析」

文教大学非常勤講師 山田 七恵

「英語を苦手とする学生に仮定法を理解させるための一方法」

日本大学非常勤講師 奥井 裕

第 122 回例会 (2011.3.13. 於日本大学会館第二別館)

東日本大震災発生のため中止。

第 123 回例会 (2011.12.4. 於日本大学会館第二別館)

〈研究発表〉

「18 世紀末英国の予約購読形式出版詩集とその書評：ハンズの事例研究」

茨城大学准教授 小林 英美  
司会 早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

「クリスティナ・ロセッティの詩にみるサフォー的なもの」

高崎経済大学非常勤講師 藤田 晃代  
司会 日本女子体育大学准教授 加賀 岳彦

## 2010 年

第 2 回年次大会 (2010.12.12. 於日本大学会館第二別館)

〈研究発表〉

「女性参政権運動に勝利をもたらしたのは誰か——『一世紀の闘争：アメリカ合衆国の女性の権利運動』における女性の力」

群馬パース大学専任講師 杉田 雅子  
司会 桜美林大学准教授 大竹麻衣子

〈講演〉

『1984 年』から『1Q84』へ——ジョージ・オーウェルと村上春樹」

デジタルハリウッド大学教授 大石健太郎

二十世紀の中葉、第二次世界大戦の直後、ジョージ・オーウェルの発表した未来小説『1984 年』は世界の文学界を大いに騒がせた。そしてそれからまた半世紀、「ノーベル文学賞」候補にノミネートされる日本の作家、村上春樹が小説『1Q84』を書いた。この二作とも洛陽の紙価を高からしめたという点において、相似点を持っているが、その狙い、内容はまったく対照的と言える。

この二つの作品をそれぞれ分解、検討しながら、両者の著作意図を繙いてみたい。「ソ連全体主義」のスターリン世界をターゲットとした『1984 年』、そして現代の社会構造、思潮を俎に載せた『1Q84』、この二作をここで比較対照しながら考え直してみるのも決して無駄ではないように思える。

〈シンポジウム〉

主題：「拡大する読者ネットワーク：文学嗜好の共有が作り出す 19 世紀文芸思潮」

茨城大学准教授 小林 英美

18 世紀から 19 世紀にかけては、啓蒙主義思想などの影響のもとで、読書趣味が拡大した時代である——社会階級的には中流・下層階級読者が増加し、女性の読者も急増し、

次の時代の作家・詩人、文芸思潮を生み出す基盤を形成したのであった。またその読者の拡大と文芸思潮形成の動きは、欧米全体を包摂するダイナミックなものであった。

今回のシンポジウムは、その文芸思潮の形成過程を以下の順序で考察していくものである。最初に藤原氏が 19 世紀初頭英国の文芸嗜好と出版社の関係をとりあげ、次いで、学外からのゲストである中垣氏が 19 世紀後半のアメリカ合衆国の予約購読出版や著作権問題を扱い、最後に小林が、藤原氏と中垣氏の発題を受け止めるようなかたちで、本シンポジウムのテーマの“起点”となる 18 世紀末へ時代を遡行し、当時の英国の予約購読出版と読者層の人脈の拡大・文芸嗜好をとりあげることになる。それぞれの発題の詳細は以下のとおりである。

「コックニー詩派と出版社——19 世紀前半英国の出版事情」

早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子

「マーク・トウェインと 19 世紀後半アメリカの出版事情——予約出版・著作権を中心に」

大東文化大学准教授 中垣恒太郎

「予約購読者一覧にみる読者・支援者網の拡大——Helen Maria Williams の詩集(1786 年)の事例研究」

茨城大学准教授 小林 英美

第 119 回例会 (2010.3.14. 於日本大学会館第二別館)

〈研究発表〉

「初期アメリカ文学にみる「不道德な女」の形成——『シャーロット・テンプル』(1794 年)『コケット』(1797 年)」

東京理科大学非常勤講師 内堀奈保子  
司会 玉川大学非常勤講師 西山 里枝

第 120 回例会 (2010.6.13. 於日本大学会館第二別館)

『実像への挑戦——英米文学研究——』合評会のため、研究発表なし。

第 121 回例会 (2010.9.13. 於日本大学会館第二別館)

〈研究発表〉

『オリヴァー・トゥイスト』における語り手とオリヴァーの関係について」

早稲田大学非常勤講師 水野 隆之  
司会 早稲田大学非常勤講師 田村 裕二

関西支部第 24 回例会 (2009.9.10. 於同志社大学)

〈研究発表〉

「シェリーは何をみたのか——ミルトンのセイタン像をめぐって」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

司会 龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏

注：併せて近畿大学非常勤講師・横光利一文学会運営委員の黒田大河氏による講演「横光利一『純粹小説論』考——「第四人称」の可能性をめぐって——」（司会 甲南大学非常勤講師 吉田一穂氏）が行われた。

## 2009 年

第 1 回年次大会（2009.12.13. 於日本大学文理学部）

〈研究発表〉

Hawthorne の“My Kinsman, Major Molineux”における一考察

—— Robin の独立への旅を中心に ——

玉川大学非常勤講師 西山 里枝

司会 東京理科大学非常勤講師 内堀奈保子

*Jane Eyre* における心——魂と身体の狭間で

桜美林大学准教授 大竹麻衣子

司会 松山大学専任講師 新井 英夫

〈シンポジウム〉

「言語芸術と視覚芸術の融合」

西洋の 17 世紀における「煉獄」図像について・・・ヴィーリクスとその影響

日本大学教授 木村 三郎

LE GOFF が、1981 年に刊行した『煉獄の誕生』（邦訳、1988 年）は、その神学論争に関する該博な教養に圧倒される著作である。近年、GÖTTLER（1996 年）は、トリエント公会議以降のこの図像論に、ル・ゴフに続く浩瀚な研究書を刊行している。当該発表では、その見解を踏まえ、煉獄図像についての基礎調査の成果を報告したい。主に、フランス国立図書館版画室収蔵のフランドルの版画家ヴィーリクスの版画の意味するところと、それが及ぼした広範な影響について紹介したいと思う。フランドルの画家ルーベンスだけでなく、イベリア半島だけでなく、極東の日本にする関与したイメージのありかたについてである（参考資料・拙著『ニコラ・プッサンとイエズス会図像の研究』2005 年）。

「捨てられたプシュケ」——18 世紀フランス絵画とラ・フォンテーヌ、モリエール

日本大学非常勤講師 安室 可奈子

「ターナーの《イングランド：摂政皇太子誕生日のリッチモンド・ヒル》（1819）の解釈：風景版画との関連から」

武蔵大学非常勤講師 出羽 尚

「キーツの《蝶》と《鳩》——「プシュケーへの賦」を中心に」

日本大学教授 植月 恵一郎

第 117 回例会 (2009.3.8. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「詩人アン・グラントと 19 世紀初頭スコットランド文芸サークル——詩集の予約出版をめぐって」

茨城大学准教授 小林 英美

司会 早稲田大学非常勤講師 大西 章夫

第 118 回例会 (2008.6.14. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

『骨董屋』におけるネルの役割：トレントを中心として」

日本大学大学院生 角田 裕子

司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

関西支部第 22 回例会 (2009.4.2. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「ディケンズと精神的外傷」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

司会 龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏

関西支部第 23 回例会 (2008.9.9. 於同志社今出川校地)

〈研究発表〉

「対置する写真——*The Tragic Muse* にみる James の過去の感覚」

ノートルダム清心女子大学准教授 中村 善雄

司会 甲南大学非常勤講師 吉田 一穂

## 2008 年

第 113 回例会 (2008.3.9. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「エミリ・ブロンテとロマンティシズム」

日本大学大学院生 山本由布子

司会 日本大学准教授 閑田 朋子

第 114 回例会 (2008.6.8. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ガンジーとエコロジー」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 早稲田大学非常勤講師 大西 章夫

第 115 回例会 (2008.9.14. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「Charlotte Brontë と観相学／骨相学: *The Professor* と *Jane Eyre* における自己と身体」

桜美林大学専任講師 大竹麻衣子  
司会 松山大学専任講師 新井 英夫

第 116 回例会 (2008.12.9. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「時間を旅する家族の物語」

日本大学専任講師 堀切 大史  
司会 日本大学助教 中村 文紀

関西支部第 20 回 (2008.3.28. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「メアリ・ウルストンクラフトと背景としての母親」

京都女子大学博士課程学位取得終了 末森 恵子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 井上 径子

関西支部第 21 回 (2008.9.16. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「サナトリウムにおけるモームの人間観察」

関西大学非常勤講師 西紋 茂樹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2007 年

第 109 回例会 (2007.3.11. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「Edwin Muir の詩と言語思想」

日本女子体育大学専任講師 加賀 岳彦  
司会 早稲田大学非常勤講師 大西 章夫

第 110 回例会 (2007.6.10. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「オーウェルの『ガンジー論』」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 111 回例会 (2007.9.9. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「*Cane* (Jean Toomer) 第 1 部の比喩的表現について」

ロンドン大学大学院生 近藤 直樹  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 112 回例会 (2007.12.9. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「キャサリン・マンスフィールド「園遊会」——階級差を越えるローラの眼差し」

神奈川県立神奈川総合産業高校教諭 加藤 良浩  
司会 拓殖大学非常勤講師 近藤 直樹

関西支部第 19 回例会 (2007.9.14. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「*The Lost Girl* における *Alvina* の旅——自意識を超えて」

同志社女子大学非常勤講師 井上 径子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2006 年

第 105 回例会 (2006.3.12. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ホーソンと罪——「幸運なる墮落」に関する一考察」

麗澤大学大学院生 富樫 壮央  
司会 日本大学助手 堀切 大史

第 106 回例会 (2006.6.10. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「アン・ブロンテの『アグネス・グレイ』における〈語り〉の本質」

日本大学大学院生 新井 英夫  
司会 早稲田大学非常勤講師 杉本 一郎

第 107 回例会 (2006.9.10. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉



「*Stranger Tales from Humble Life* 試論」

日本大学文理学部助教授 閑田 朋子  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 108 回例会 (2006.12.10. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「リー・ハント『リミニ物語』の語り」

早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子  
司会 早稲田大学非常勤講師 大西 章夫

関西支部第 17 回例会 (2006.7.15. 於 YMCA 国際文化センター[大阪市])

〈研究発表〉

「『バーナビー・ラッジ』にみる国家の姿」

龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第 18 回例会 (2006.9.23. 於 YMCA 国際文化センター[大阪市])

〈研究発表〉

「ミルトンの律法観」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ  
司会 龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏

## 2005 年

第 101 回例会 (2005.3.13. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「マンスフィールドの「カナリア」について」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 早稲田大学非常勤講師 水野 隆之

第 102 回例会 (2005.6.12. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「オーウェルの初期の小説」

早稲田大学非常勤講師 大石健太郎  
司会 早稲田大学非常勤講師 近藤 直樹

第 103 回例会 (2005.9.11. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「チャールズ・ブロックデン・ブラウンにおける「共感」の両義性」

中央大学非常勤講師 平野 正樹  
司会 日本大学助手 堀切 大史

第 104 回例会 (2005.12.11. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「Herman Melville の “The Bell- Tower” を読む レトリカル・ナレーター」

明治大学非常勤講師 奈良裕美子  
司会 日本大学非常勤講師 中村 文紀

関西支部第 15 回例会 (2005.3.31. 於同志社大学田辺校地)

〈研究発表〉

「ディケンズとスマイルズ」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂  
司会 龍谷大学非常勤講師 藤井 晶宏

関西支部第 16 回例会 (2005.10.23. 於同志社大学今出川校地)

〈研究発表〉

「教養小説としての『高慢と偏見』」

京都女子大学大学院生 末森 恵子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2004 年

第 97 回例会 (2004.3.14. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「*Far from the Madding Crowd* 試論」

日本大学大学院生 杉本 宏昭  
司会 日本大学助手 堀切 大史

「“Morality Play”としての「森の景色」」

早稲田大学大学院生 加藤 良浩  
司会 早稲田大学非常勤講師 近藤 直樹

第 98 回例会 (2004.6.13. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「*The Mable Faun* の登場人物をめぐって」

昭和女子大学大学院生 西山 里枝  
司会 日本大学助手 堀切 大史

「Leigh Hunt's Liberal Poetics」

早稲田大学非常勤講師 藤原 雅子  
司会 日本女子体育大学専任講師 加賀 岳彦

第 99 回例会 (2004.9.12. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「McCullers の小説と劇をめぐって——*The Member of the Wedding*」

昭和女子大学大学院生 廣田 純子  
司会 日本大学非常勤講師 中村 文紀

第 100 回例会 (2004.12.12. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ロマン派とエコロジー」

日本大学芸術学部教授 植月 恵一郎  
司会 日本女子体育大学専任講師 加賀 岳彦

「ミルトンの自然生態学(上)」

早稲田大学非常勤講師 大西 章夫  
司会 日本女子体育大学専任講師 加賀 岳彦

関西支部第 13 回例会 (2004.4.17. 於同志社今出川校地)

〈研究発表〉

「女性に向けられた二つの教育——メアリ・ウルストンクラフトとシャーロット・ブロンテの主張から」

京都女子大学大学院生 末森 恵子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第 14 回例会 (2004.10.23. 於同志社今出川校地)

〈研究発表〉

「モームの短編『九月姫』について」

関西大学非常勤講師 西紋 茂樹  
司会 高野山大学特遇講師 藤井 晶宏

## 2003 年

第 93 回例会 (2003.3.9. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「『リトル・ドリット』における視点の問題」

早稲田大学文学部助手 水野 隆之

司会 早稲田大学非常勤講師 杉本 一郎

第 94 回例会 (2003.6.8. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ジョイスの『出会い』について」

早稲田大学大学院生 今井 宏二  
司会 日本大学非常勤講師 奥井 裕

第 95 回例会 (2003.9.8. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「ニューヨークで同時多発テロと大停電に遭遇して」

新見公立短期大学助教授 山内 圭

第 96 回例会 (2003.12.8. 於日本大学文理学部)

〈研究発表〉

「殺す女・殺される女—— ヴィクトリア朝フィクションにおいて——」

日本大学文理学部専任講師 閑田 朋子  
司会 早稲田大学非常勤講師 杉本 一郎

関西支部第 11 回例会 (2003.4.2. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「ミルトンの「混沌」」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ  
司会 高野山大学特遇講師 藤井 晶宏

関西支部第 12 回例会 (2003.9.20. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「肉体美に対する執心とナルシシズム」

同志社女子大学非常勤講師 井上 径子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2002 年

第 89 回例会 (2002.3.10. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「「教え子」に見られるヘンリー・ジェイムズの金銭感覚」

早稲田大学大学院生 大森 夕夏  
司会 早稲田大学文学部助手 村上 知子

第 90 回例会 (2002.6.9. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「動物と文学——アーヴィン・ウェルシュの奇抜な発想について」

日本大学非常勤講師 伊藤由起子  
司会 千葉工業大学非常勤講師 小林 正弘

第 91 回例会 (2002.9.8. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「Flannery O'Connor の “Everything That Rises Must Converge” を読む」

早稲田大学大学院生 加藤 良浩  
司会 早稲田大学非常勤講師 杉本 一郎

第 92 回例会 (2002.12.8. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

『カタロニア讃歌』試論」

早稲田大学大学院了 近藤 直樹  
司会 早稲田大学非常勤講師 大石健太郎

関西支部第 9 回例会 (2002.3.18. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「*Oliver Twist* における Nancy 改心の意味」

甲南大学非常勤講師 吉田 一穂  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第 10 回例会 (2002.9.19. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「怨霊鎮魂詩としての『リシダス』」

早稲田大学非常勤講師 大西 章夫  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 2001 年

第 85 回例会 (2001.3.11. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈読書会〉

「CS について——上野俊也／毛利嘉孝『カルチュラル・スタディーズ入門』筑摩書房、  
2000 年、ちくま新書 261 を中心に——」

主宰 日本大学芸術学部助教授 植月恵一郎

今回は研究発表ではなく、一つのテーマ = **cultural studies** (以下 CS) を取り上げ、一冊の本 = 『カルチュラル・スタディーズ入門』(ちくま新書) の読書会という形で例会を行った。

アメリカでの CS のメッカでもあるジョージ・メイソン大学 (GMU) が設けた CS の博士課程の説明によると、CS とは「文化的なモノの生産・流通・消費を社会的な文脈の中で検討するために、解釈と説明の手法を接合しつつ、社会科学と人文諸学を結びつける」ものだというプログラムは、社会科学と人文諸学とを結びつける「理論や方法に特に焦点を当てながら」、「国民性、階級、人種、ジェンダーといった今日の問題」をはじめ、「過去、現在のあらゆる形態の文化」を取り扱う、と説明されている。さらに続く解説では、CS が、思想的には、批評理論、解釈学、現象学、ポスト構造主義、その他諸々の潮流の影響を受けていることが説明され、さらに、CS が、グローバリゼーションによる社会の流動化や、産業社会から情報社会への移行に伴う文化的な意味での財の生産・消費の拡張、といった事態を受けて出現したことが説かれている。

このような特徴をもった学問の手法が、文学にも有効か、また現代だけでなく古い時代にも有効であるかなどの疑問が出たが、文学研究は、社会科学と人文科学の両方にまたがっているし、現代は近代から連綿とつながって展開していると考えれば、ルネサンス以降の諸問題にもじゅうぶん有効であることを確認して読書会を終えた。

#### 第 86 回例会 (2001.6.10. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

##### 〈研究発表〉

「ヴィクトリア朝社会問題小説における問題点」

日本大学文理学部助手	閑田 朋子
司会 早稲田大学文学部助手	水野 隆之

#### 第 87 回例会 (2001.9.9. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

##### 〈研究発表〉

「英詩と声楽曲」—— その活用の可能性と鑑賞」

早稲田大学非常勤講師	小林 英美
司会 日本大学非常勤講師	藤原 雅子

#### 第 88 回例会 (2001.12.9. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

##### 〈研究発表〉

『ブラックウッズ・エディンバラ・マガジン』とリー・ハント—— 『リミニ物語』における問題点」

日本大学非常勤講師	藤原 雅子
司会 早稲田大学非常勤講師	加賀 岳彦

「オーウェルとビルマの日々」

日本大学非常勤講師	奥井 裕
司会 早稲田大学文学部助手	水野 隆之

関西支部第7回 (2001.3.19. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「D.H. Lawrence の “The Lovely Lady” を読む」

同志社女子大学非常勤講師 井上 径子  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第8回 (2001.9.14. 於同志社同窓会館)

〈研究発表〉

「*The Mystery of Edwin Drood* から *Our Mutual Friend* 」

高野山大学特遇講師 藤井 晶宏  
司会 同志社女子大学非常勤講師 井上 径子

## 2000 年

第80回例会 (2000.3.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「John Steinbeck と R.L. Stevenson」

新見公立短期大学専任講師 山内 圭  
司会 早稲田大学文学部助手 加賀 岳彦

第81回例会 (2000.6.11. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「*Mrs. Dalloway* における Lady Bruton をめぐるテキスト戦略」

十文字学園女子大学非常勤講師 榊原理枝子  
司会 日本大学非常勤講師 奥井 裕

第82回例会 (2000.9.10. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「1795 年時点における S.T.コウルリッジの神学とウィリアム・ペイリーとの関連について」

早稲田大学大学院生 直原 典子  
司会 早稲田大学非常勤講師 小林 英美

第83回例会 (2000.11.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「トマス・カーライルの「黒奴問題」について」

早稲田大学文学部専任講師 岡田俊之輔  
司会 早稲田大学非常勤講師 池田 史彦

第 84 回例会 (2000.12.10. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「講読は非実用的か？」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 日本大学非常勤講師 藤原 雅子

関西支部第 5 回 (2000.3.31. 於同志社大学今出校舎)

〈研究発表〉

「柔らかい都市の可能性：60 年代後半から 70 年代初めの空気構造流行の文化的背景」

同志社大学専任講師 遠藤 徹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第 6 回 (2000.9.18. 於同志社大学今出校舎)

〈研究発表〉

「善でないものは即ち悪か—— *Paradise Lost* に映し出されたプラトンの影響——」

同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ  
司会 高野山大学特遇講師 藤井 晶宏

## 1999 年

第 73 回例会 (1999.3.14. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「ジョージ・ハーバートにおける ‘cunning’ の真意」

日本大学非常勤講師 石黒 恭代  
司会 中央大学非常勤講師 横山 孝一

第 74 回例会 (1999.4.11. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「自己愛と自己滅却—— アン・ブラッドストリートの “若気の至り”」

横浜国立大学非常勤講師 大西 章夫  
司会 日本大学芸術学部助教授 植月恵一郎

第 75 回例会 (1999.6.13. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「二つの『ハイピリオン』—— 古代弁論術を解法として」

拓殖大学非常勤講師 小林 正弘  
司会 学習院大学非常勤講師 小林 英美



第 76 回例会 (1999.7.11. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「青年ワーズワースの記念碑としての「イチイの木」—— 詩集での作品配置と思想的影響との関係」

学習院大学非常勤講師 小林 英美  
司会 日本大学非常勤講師 藤原 雅子

第 77 回例会 (1999.9.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「二つの夫婦の形——シリトーの結婚観について」

日本大学非常勤講師 横田由起子  
司会 早稲田大学文学部助手 田村 裕二

第 78 回例会 (1999.11.14. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

『サムラー氏の惑星』における 1960 年代の表象——黒人とユダヤ人を中心に」

日本大学非常勤講師 新宅 美樹  
司会 日本大学非常勤講師 奥井 裕

第 79 回例会 (1999.12.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

『ハード・タイムズ』—— 事実に基づいた空想—— 」

早稲田大学大学院生 水野 隆之  
司会 日本大学非常勤講師 横田由起子

関西支部第 3 回例会 (1999.4.11. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「放送通訳について」

近畿大学非常勤講師 小倉 慶郎  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第 4 回例会 (1999.8.11. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「サマセット・モームの短編『蟻とキリギリス』について」

関西大学非常勤講師 西紋 茂樹  
司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

1998 年

第 66 回例会 (1998.3.8. 於早稲田大学総合学術情報センター)

〈研究発表〉

「リチャード・クラシヨアの <心臓> —— 「燃える心臓」について」

日本大学助教授 植月恵一郎  
司会 日本学術振興会特別研究員 大西 章夫

第 67 回例会 (1998.4.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「グリーブ家のバーバラ」

早稲田大学大学院生 杉山 幸子  
司会 早稲田大学大学院修了 木ノ内敏久

第 68 回例会 (1998.6.14. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「オーウェルは矛盾の多い作家か」

日本大学非常勤講師 奥井 裕  
司会 千葉工業大学非常勤講師 横田由起子

第 69 回例会 (1998.7.12. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「労働者階級の音表現」

千葉工業大学非常勤講師 横田由起子  
司会 早稲田大学文学部助手 加賀 岳彦

第 70 回例会 (1998.9.13. 於日本大学芸術学部江古田校)

〈研究発表〉

『『ダロウェイ夫人』における帝国主義と権力構造』

早稲田大学大学院修了 榊原理枝子  
司会 成城大学大学院生 市川 雅一

第 71 回例会 (1998.11.8. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「コウルリッジの言語論」

早稲田大学文学部助手 加賀 岳彦  
司会 早稲田大学教育学部助手 藤原 雅子

第 72 回例会 (1998.12.13. 於日本大学芸術学部江古田校舎)

〈研究発表〉

「キーツと文芸ジャーナリズム—— *Endymion* 序文改稿をめぐって」

早稲田大学教育学部助手 藤原 雅子

司会 拓殖大学非常勤講師 小林 正弘

関西支部第1回例会 (1998.5.22. 於同志社女子大学同窓会館)

〈研究発表〉

「ミルトンの庭——隠れ家としてのミルトンの森」

日本学術振興会特別研究員 大西 章夫

司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

関西支部第2回例会 (1998.5.22. 於同志社大学今出川校舎)

〈研究発表〉

「Canonical Marking Relation と Optionality」

同志社女子大学非常勤講師 城下真由美

司会 同志社女子大学非常勤講師 江藤あさじ

## 1997年

第59回例会 (1997.3.9. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「J・D・サリンジャーの謎を解く——失恋体験とその影響——」

中央大学非常勤講師 横山 孝一

司会 中央大学非常勤講師 小松 良江

「R・L・スティーブンスン『マーカイト』の訪問者(Visitor)の正体について」

目白学園高校教諭 竹内 一郎

司会 早稲田大学大学院生 杉本 一郎

第60回例会 (1997.4.13. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「C・S・ルイスとミルトン——『失樂園序説』を中心に——」

早稲田大学大学院生 池田 史彦

司会 日本学術振興会特別研究員 大西 章夫

第61回例会 (1997.6.8. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「F. Scott Fitzgerald の *The Beautiful and Damned* を読む」

早稲田大学非常勤講師 深谷 素子

司会 千葉工業大学非常勤講師 横田由起子

第62回例会 (1997.7.13. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「シャーロット・プロンテの『ヴィレット』(Villette) について」

早稲田大学大学院生 田村 裕二  
司会 早稲田大学文学部助手 杉本 一郎

第 63 回例会 (1997.9.14. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「George Herbert における罪の意識の一考察」

創価大学大学院修了 石黒 恭代  
司会 日本大学芸術学部助教授 植月恵一郎

第 64 回例会 (1997.11.9. 於早稲田大学国際会議場)

研究発表なし

第 65 回例会 (1997.12.14. 於早稲田大学総合学術情報センター)

〈研究発表〉

「コミュニケーションと間主観性」

横浜国立大学非常勤講師 谷 憲治  
司会 早稲田大学教育学部助手 藤原 雅子

## 1996 年

第 51 回例会 (1996.1.13. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

研究発表なし

第 52 回例会 (1996.3.11. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

〈研究発表〉

「三つの大学“服飾”劇について (Three University Plays on Clothing)」

国立館大学非常勤講師 加藤 誠

第 53 回例会 (1996.4.14. 於中央大学駿河台記念館)

〈研究発表〉

「言語教育におけるチョムスキー理論の意義」

横浜国立大学非常勤講師 谷 憲治

第 54 回例会 (1996.6.9. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「ヒーニーの詩」

東海大学非常勤講師 横田 肇

「外国人とのコミュニケーション：ことばと文化を考える」

東海大学非常勤講師 小泉 裕司

第 55 回例会 (1996.7.14. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「再び *The Marble Faun* についての考察」

中央大学非常勤講師 小松 良江

第 56 回例会 (1996.9.8. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「エンディミオン」における神話エピソードの意味

早稲田大学教育学部助手 藤原 雅子

第 57 回例会 (1996.11.10. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「『リリカル・バラッズ』の出版背景と女性作家と女性読者」

茨城県立医療大学非常勤講師 小林 英美

第 58 回例会 (1996.12.8. 於早稲田大学国際会議場)

〈研究発表〉

「詩としての第 16 章—— A・シリトーの <円> と <曲線> について——」

東京立正女子短大非常勤講師 横田由起子

司会 日本大学非常勤講師 奥井 裕

「『エンディミオン』—— 従来の翻訳・解釈における若干の問題点について——」

拓殖大学非常勤講師 小林 正弘

司会 早稲田大学教育学部助手 藤原 雅子

## 1995 年

〈研究発表〉

第 41 回例会 (1995.1.22. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「*Lyrical Ballads* 第 2 版の構成」

早稲田大学教育学部助手 小林 英美

第 42 回例会 (1995.3.4. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「ワーズワースの思想的成長」

早稲田大学大学院生 長谷部龍文

- 第 43 回例会 (1995.4.2. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ミルトン『教育論』の現代的意義」  
中央大学非常勤講師 大西 章夫
- 第 44 回例会 (1995.5.13. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「エドマンド・ブランデンの自然観」  
東海大学非常勤講師 横田 肇
- 第 45 回例会 (1995.6.11. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「詩人ミルトンの自立」  
中央大学非常勤講師 大西 章夫
- 第 46 回例会 (1995.7.8. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「『嵐が丘』について」  
早稲田大学大学院生 田村 裕二
- 第 47 回例会 (1995.9.9. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「アガペーとエロス——『情事の終り』を軸に」  
国士舘大学非常勤講師 秋本 和子
- 第 48 回例会 (1995.10.8. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「『オットー大帝』について」  
早稲田大学大学院生 加賀 岳彦
- 「アラン・シリトーの『土曜の夜と日曜の朝』について」  
茨城県立医療大学嘱託 横田由起子
- 第 49 回例会 (1995.11.11. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「幻想の境界論」  
千葉工業大学非常勤講師 遠藤 徹
- 第 50 回例会 (1995.12.10. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「*A Group of Noble Dames* について」  
早稲田大学大学院修了 杉山 幸子

## 1994 年

〈研究発表〉

- 第 29 回例会 (1994.1.23. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ワーズワースにおける理性の意味」  
早稲田大学大学院生 長谷部龍文
- 第 30 回例会 (1994.2.27. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「トニ・モリスンの *Beloved* について」  
中央大学大学院生 横山 孝一
- 第 31 回例会 (1994.3.20. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「*Lyrical Ballads* の編成」  
国士舘大学非常勤講師 小林 英美
- 第 32 回例会 (1994.4.17. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「コーデリア像をめぐる『リア王』の異版対照研究」  
国士舘大学非常勤講師 大西 章夫
- 第 33 回例会 (1994.5.15. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「翻訳の良否—— A・オウエンを素材に——」  
東海大学非常勤講師 横田 肇
- 第 34 回例会 (1994.6.19. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ディケンズの父親像」  
早稲田大学大学院生 杉本 一郎
- 第 35 回例会 (1994.7.17. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ホーソンの *The Marble Faun* のピューリタニズムとゴシック」  
中央大学非常勤講師 小松 良江
- 第 36 回例会 (1994.8.21. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「マクベスの魔女」  
国士舘大学非常勤講師 越智 敏之
- 「グリーン文学に見られるキリスト教思想」  
国士舘大学非常勤講師 秋本 和子
- 第 37 回例会 (1994.9.18. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「触手論／テキスト論」  
都立農芸高等学校教諭 遠藤 徹
- 第 38 回例会 (1994.10.23. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「キーツの長篇詩の技法」

早稲田大学大学院修了 加賀 岳彦

「アラン・シリトーの『ドアの鍵について』」

早稲田大学大学院修了 横田由起子

第 39 回例会 (1994.11.20. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「モームの『アリとキリギリス』を読む」

日本大学非常勤講師 奥井 裕

「Linking ‘r’ and intrusive ‘r’」

エセックス大学大学院修了 谷 憲治

第 40 回例会 (1994.12.18. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

『ご降誕祭のどたばた晚餐』(A Christmas Messe, 1619) について」

国士舘大学非常勤講師 加藤 誠

## 1993 年

〈研究発表〉

第 17 回例会 (1993.1.17. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

『ハムレット』の言葉遊び」

東海大学非常勤講師 神山 高行

第 18 回例会 (1993.3.7. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「語り手としてのペロー」

中央大学大学院生 新井 典子

「詩人のイメージ」

早稲田大学大学院生 小林 英美

第 19 回例会 (1993.3.21. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「Wordsworth’s Life」

早稲田大学大学院生 長谷部龍文

第 20 回例会 (1993.4.18. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「Henry James の *The Golden Bowl* について」

武蔵野音楽大学非常勤講師 内山 知子



- 第 21 回例会 (1993.5.23. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ジョージ・オーウェルの『ウィガン波止場への道』について」  
日本大学非常勤講師 奥井 裕
- 第 22 回例会 (1993.6.20. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「ハーディーの恋愛詩について」  
東海大学非常勤講師 横田 肇
- 「『オリヴァー・ツイスト』について」  
早稲田大学大学院生 杉本 一郎
- 第 23 回例会 (1993.7.18. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「Henry Miller の自伝的契約」  
パリ第 3 大学大学院修了(文博) 松田憲次郎
- 「Puritan Heritage の中の *The House of the Seven Gables*」  
中央大学非常勤講師 小松 良江
- 第 24 回 例会 (1993.8.15. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「『失樂園』における教育的機能」  
国士舘大学非常勤講師 大西 章夫
- 「エドガー・アラン・ポウの『ウィリアム・ウィルソン』における同級生の正体」  
早稲田大学大学院修了 竹内 一郎
- 第 25 回例会 (1993.9.19. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「キーツの擬人法」  
早稲田大学大学院生 加賀 岳彦
- 第 26 回例会 (1993.10.17. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「シェークスピアの『様式的な』劇 序説」  
国士舘大学非常勤講師 加藤 誠
- 第 27 回例会 (1993.11.21. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「マクベス夫人の牢獄」  
国士舘大学非常勤講師 越智 敏之
- 第 28 回例会 (1993.12.19. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)  
「Murray Pomerance, *DECOR* について」  
東京理科大学非常勤講師 宍戸絵里香

## 1992 年

〈研究発表〉

第 12 回例会 (1992.3.23. 於早稲田大学戸山構内)

「‘spots of time’ 体験の外界と心情」

早稲田大学大学院生 小林 英美

第 13 回例会 (1992.6.8. 於早稲田大学戸山構内)

「現状への傾斜」

早稲田大学大学院生 加賀 岳彦

「“The Road from Colonus” 研究」

早稲田大学大学院生 内山 知子

第 14 回例会 (1992.10.18. 於早稲田大学総合学術センター)

「『荒地』に於ける水圏」

東海大学非常勤講師 横田 肇

第 15 回例会 (1992.11.15. 於早稲田大学総合学術センター)

「詩人ミルトンの出発 再説」

国士舘大学非常勤講師 大西 章夫

「キーツ ソネットからオードへ」

早稲田大学大学院生 加賀 岳彦

第 16 回例会 (1992.12.20. 於早稲田「セミナーハウスきむら」)

「囲われた隠れ家」

国士舘大学非常勤講師 大西 章夫

「道化服を着たジェームズ一世」

国士舘大学非常勤講師 越智 敏之

## 1991 年

〈研究発表〉

第 9 回例会 (1991.6.20. 於学習院大学)

「A. Pope 『人間論』の第二書簡から」

日本大学芸術学部非常勤講師 佐藤 豊

第10回例会（1991.9.28. 於早稲田大学戸山構内）

「*What was Mine* (1991)——*The Burning House* (1984) との比較を中心に」

目白学園女子短大非常勤講師 宋戸絵里香

第11回例会（1991.12.18. 於学習院大学）

「ウルフの『波』について」

日本大学芸術学部非常勤講師 中谷 久一

（付記） 第1回～第8回までの例大会の記録は残っておりません。

### 歴代会長・幹事長・例大会運営委員長・事務局長・編集代表・関西支部長

#### 歴代会長（学会化後）

2008～2019 植月恵一郎

2020～ 小林 英美

#### 歴代幹事長（学会化後）

2008～2019 水野 隆之

#### 例大会運営委員長

2020～ 上滝 圭介

#### 歴代事務局長（学会化後）

2008～2013 大西 章夫

2013～ 奥井 裕

#### 歴代編集代表（学会化後）

2008～2014 加賀 岳彦

2015～2016 奥井 裕

2017～2019 水野 隆之

2020～ 藤原 愛

#### 歴代関西支部長（学会化後）

2008～ 遠藤 徹